

【データ・サンプル取扱いに関する確認事項の記入方法】

1. 「データ・サンプル取扱いに関する確認事項」とは

「平成 24 年度 課題申込書」には、データ・サンプルの取扱いに関する以下の 2 つの様式が添付されています。

【様式 1】「データ・サンプル取扱いに関する確認事項」 → (以下**【様式 1】**)

【様式 2】「データ・サンプル取扱いに関する『特別な取決め』申請書」 → (以下**【様式 2】**)

機構では、「データ・サンプル取扱関連規程類」(以下「規程類」)を定めています。本公募により取得されたデータ・サンプルも規程類と同じルールで取扱われます。

ただし、データ・サンプルの取扱いに関して機関間の協定が結ばれている場合には、協定に書かれたルールが優先されます。また、然るべき理由があれば、規程類の各項目について『特別な取決め』を課題毎に定めることができます。

【様式 1】は、別途協定の有無の確認と、規程類の各項目への同意を確認するものです。

【様式 2】は、『特別な取決め』の希望内容と理由を申請していただくものです。申請内容は採択内定までに機構で審査され、認められたものについては課題採択時に「データ・サンプルの取扱いに関する誓約書」で取決めが行われます。

※ データ・サンプル取扱いの詳細は、下記の資料をご確認下さい。

「データ・サンプルの取扱いについて」(別紙 8)

「データ・サンプルの取扱いに関する誓約書」及び「生物サンプルに関する同意書」について(別紙 9)

2. **【様式 1】**(データ・サンプル取扱いに関する確認事項)記入方法

(1) 機関間の協定の有無について

以下の①～③のうち該当する項目 1 つにチェック (☑) を入れてください。

機構と外部機関との間で、提案課題に関するデータ・サンプル取扱いについて協定を、

①「結んでいる」 または

②「当該航海が開始されるまでに結ぶ予定である」

協定の名称と、その所属機関・部署名と機構の研究領域/センター名をご記入ください。別途、協定の写し(締結予定の場合はその文案があれば)を送付して下さい。

⇒さらに、協定の内容により、規程類への同意が困難な場合は、**【様式 2】**にその内容をご記入ください。

※ 協定の内容が優先となりますが、協定に定めがない事項については、協定の機構側当事者から確認させていただく場合があります。

※ ②の場合は協定の締結後、その内容を課題管理部署まで必ずご連絡ください。

③「上記事項のいずれにも該当しない」⇒(2)にお進みください。

(2) データ・サンプル取扱規程類 同意事項

本項目は、機構の船舶等を利用してデータ・サンプルを取得する研究者が遵守すべき重要事項を抜粋したものです。内容をよく確認し、『同意する』欄にチェック (☑) を入れてください。

調査・研究の性質上の理由により、同意できない項目にはチェックを入れずに【様式2】に必要事項をご記入ください。全ての項目についてチェックがある場合は【様式2】に記入する必要はありません。

3. 【様式2】(データ・サンプル取扱いに関する『特別な取決め』申請書) 記入方法

【様式1】(2)の「同意する」欄にチェックできない項目は、別途その内容を『特別な取決め』として機構と交す必要があります。

表1.の記入例を参考に、【様式2】を用いて『特別な取決め』の【希望内容】とその【理由】を項目毎に具体的に記入し申請して下さい。

※ ここで定めた事項は、課題単位で有効な事項として優先的に扱われます。

※ 記載の無い事項は、規程類に「同意する」とみなします。

※ 『特別な取決め』の希望内容について、事務局からご連絡をさせていただく場合があります。

表1. 記入例

例1	事項 No/タイトル	1. データ・サンプルの帰属
	希望内容	◎◎国の EEZ 内にて実施する * * 観測のデータについては、◎◎国側カウンターパートである @@ 研究所の帰属としたい。
	理由	%%国に対するクリアランス申請を行うために @@ 研究所と MOU を締結する予定であるが、相手側がデータの @@ 研究所への帰属を MOU 締結の条件としているため。
例2	事項 No/タイトル	3. データ・サンプルの公開
	希望内容	○○サンプルの化学分析データについては公開猶予期間を3年としたい。
	理由	本分析においては△△法による試料前処理に1年程度の期間を要する。採取予定のサンプル数を考慮すると、分析、解析およびとりまとめに少なくとも3年は必要と考えられるため。
例3	事項 No/タイトル	1. データ・サンプルの帰属
	希望内容	##観測装置により取得されたデータについては機構と \$\$ 大学との共有としたい。
	理由	##観測装置は機構が \$\$ 大学と共同開発した機器であり、データについて機構単独の帰属とすることはできないため。
例4	事項 No/タイトル	2. データ・サンプルの提出
	希望内容	コアサンプルの全量を作業部分と同様に扱いたい。
	理由	○○の分析には、1分析あたり★g の堆積物試料が必要である。☆cm 間隔で分析を行うには、コアサンプルの全量を使用しなければならないため。